

## 情 報

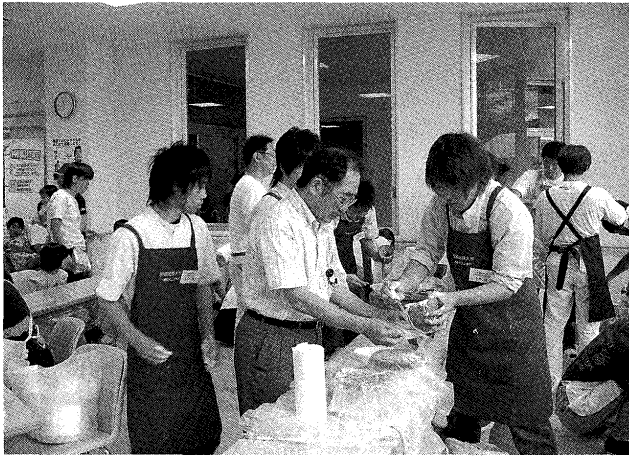


図4 胎内市 ほっとHOT中条  
手型模型作製風景



図5 新潟市 陸上競技場  
障害者大運動会風景

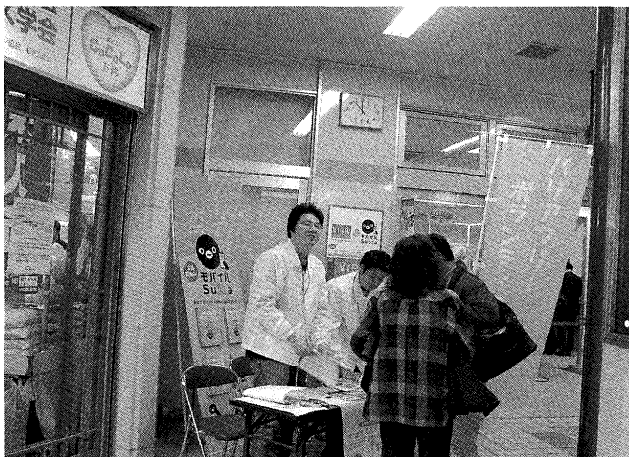


図6 新潟駅バリアフリー  
研修風景

### 活動した学生の声

- ・人々の役に立つことができたり、先輩との交流ができてよかった。
- ・他人と協力し合うことや、積極的に働くことの必要性を知る。
- ・ボランティア活動は助けてあげることと思っていたが、助けられることもあり、お互いに助け合うことがある。
- ・信頼関係は積み重ねにより築かれる。また人との触れ合いが大事なんだと気づく。
- ・障害者との交流ができてよかったし、福祉に興味を抱く様になる。
- ・純粋に何かを取り組むことの大切さを忘れないようにしたい。

### おわりに

ボランティアを選択した学生たちは、この活動を通して、貢献したことの充実感や、多様な価値観にも触れ、ただ単に単位修得目的のみの奉仕ではなく、かけがえない人生経験をしたと思います。

ボランティアが身につけていく大切な要素とは自発的に主体的に生きる力、他者を思いやる心、共感する心が育まれていかなければならない。よって、これまで以上の意識的な努力が注がれることが必要になります。

基本的には「自分を愛するように他者を愛する心」を、より大切にしていける人、あるいはそのような生き方を受け止められる人が育つことで、学びとる機会が心豊かにしていくことは「ボランティアの心」が社会に満ちていくことに深く繋がっていくと思います。

(文責 中澤孝敏)

### 三越新潟店における「歯の健康フェア」への参加

新潟市歯科医師会主催、新潟県歯科衛生士会新潟支部、新潟県歯科技工士会新潟支部、新潟市栄養士会、新潟大学歯学部が参加した「2006 歯の健康フェア」に明倫短期大学歯科技工士学科2年生20名、1年生21名、生体技工専攻科2年生5名、1年生2名計48名の希望者がボランティアとして参加した。

昨年に引き続きこのフェアに参加し、学生が大学では経験できないことを体験でき、歯科技工士の会の方とコミュニケーションが取れば、就職活動等に役立つと思い新潟県歯科技工士会新潟支部にお願いし、今年は合同準備会議から参加した。

参加希望学生48名を1グループ12名、3時間ずつ4つ

## 情 報

のグループに分け、当日9:00から会場設営、9時45分からセレモニー開始、10時から手形取りをした。手形取りの方は220名(昨年246名)の方のお子さん達の手形・足形の印象採得、石膏注入やその取り出し、配布など分担して行った。開場とともにお客様が来られ、大盛況のうちに石膏がなくなり終了した。

新潟県歯科技工士会新潟支部の会員の方々から印象材や石膏の練り方、流し方などを学生1人1人にご指導をいただきましたが、学生の中には積極的に会員の方々と話しかけていた学生もあり有意義なお話を聞けたと思われる。

新潟県歯科技工士会新潟支部長や副支部長から「今年も参加していただきありがとうございます。素敵な笑顔で接していただきありがとうございます。ぜひ、来年も参加してください。」と終了時にお声をかけていただいただけではなく「学生の慰労会をかねて、昼食を食

べながら座談会を行いたい」と申し出があり、日時・場所の調整をすることになった。

今年度は希望学生が多く、印象練り・石膏流しなどの業務ができなかった学生もいたが、来年度もぜひこの「歯の健康フェア」に学生が参加でき、新潟県歯科技工士会新潟支部の会員の方々とお話ができる機会を設けたいと思う。

人員の確保・配置・時間帯・用具の調達などの様々な問題があるが、歯科技工士の存在や明倫短期大学の名前を一般の方に知っていただくには良い機会だと思われる。

また最後になりましたが、今年も学生が参加することを承諾いただきました新潟市歯科医師会、新潟県歯科技工士会新潟支部の方に御礼申し上げます。

(文責 佐々木 聡)



図7 開始前の集合写真



図8 受付風景



図9, 10 印象取り

## 情 報



図11 石膏流入



図12 取り出し

### 生体技工専攻生からみた 新潟国際ビジネスメッセ 2006 —歯科技工士の精密な手作業と CAD/CAM システムの融合—

野村 章子, 丸山 満

平成18年11月16日(木), 17日(金)の両日に渡り新潟市産業振興センターにて「新潟国際ビジネスメッセ」が開催されました。この催しは企業、製品、技術のPRを参加目的とした業種、地域、企業の規模を問わない総合産業見本市であり、海外企業の出展も多く、本学も教育および研究活動のPR、地域産業や他大学との交流を目的に毎年出展しています。

今年は、産学連携構築委員会事業の一環として歯科技工士学科が担当し、「歯科技工士の精密な手作業とCAD/CAMシステムの融合」について、実際のデモンストレーションを交えて紹介しました。

当日の総来場者数は昨年比103%と増加が見られ、本学のブースも歯の相談件数12名、診療予約者数1名を含む50名の方に足を止めていただき、大変活気に満ちあふれていました。事前準備から当日の運営、撤収までを生体技工専攻科生11名が交替で教職員とともに担当しました。展示内容については、技術紹介は技工製作物展示(石膏棒、歯型彫刻、義歯、矯正装置、マウスガード)やCAD/CAMの紹介、技術の融合については、セルコンシステムと比較しながら歯冠色ワックスによる歯冠形成のデモンストレーションを、教員の指導のもとで専攻科生が担当しました。

在学する専攻生にとっては、国際ビジネスメッセへの参加は初めての大学行事でしたが、来場者への技工製作

物の説明はもとより、デモンストレーションを行いながら来場者とのコミュニケーションをはかるなど多彩な活動を行っていました。

本稿では、新潟国際ビジネスメッセ2006に参加した専攻科生からの感想をご紹介します。

「知識を生かした説明など、歯科技工士の新たな可能性を見つけることができた」

ビジネスメッセに参加し、他分野の参加者が集まる中で、歯科技工をどう魅力的にアピールするか考えさせられました。その方法として、ポーセレン築盛をイメージした歯冠色ワックスの築盛デモンストレーション、オールセラミックスの分野で注目されているジルコニアの紹介など、他のブースに引けをとらないような内容豊富な企画を行いました。デモンストレーションでは、支台歯に歯冠色ワックスを築盛し、歯冠形態を回復することによってワックスの操作方法を他業種の方に広くアピールできました。

様々な分野の方とお話をさせていただく機会がありましたが、歯科技工を全く知らない方も多く、クラウンを歯科医師が製作していると思っていた方もおり、歯科技工士の業務内容を詳しく説明することができました。また、他分野の方から学ぶことも多く、金属加工を行っている会社のブースでは、金属の価格や強度についての情報を教えてもらいました。一般の方は、歯科補綴治療の中ではインプラントについての質問が多く、実際の治療方法や、金額、上部構造の説明を求められ、関心の高さが伺えました。

今回の企画によって、広く一般の方に歯科技工を知っていただくことができたと考えています。また、知識を生かした説明など、歯科技工士の新たな可能性を見つ